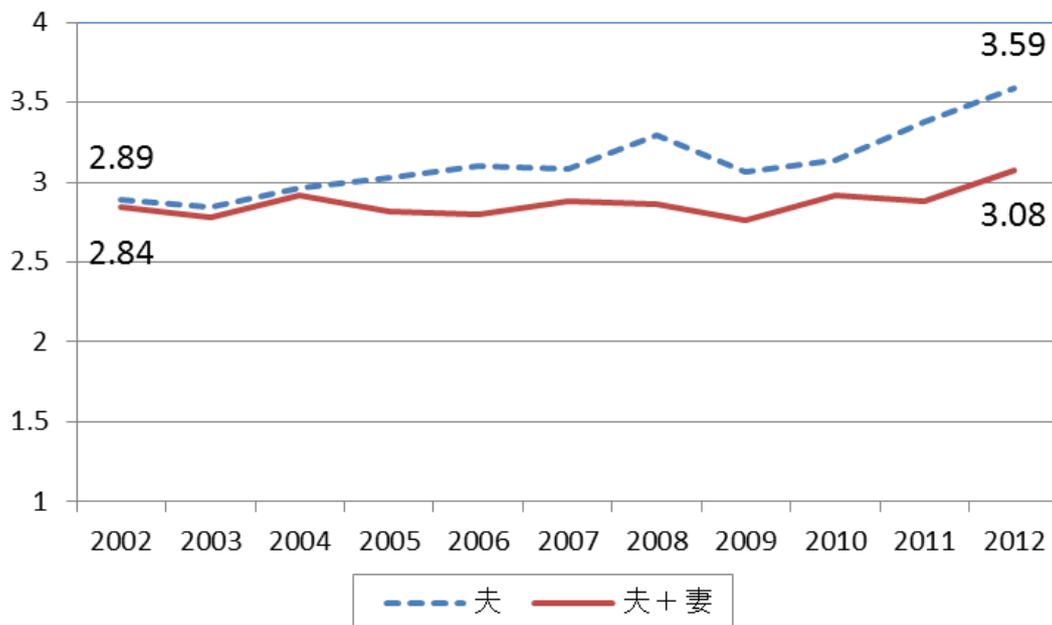


## 1. 10年間の所得分布の変化

2002年から2012年にかけての10年間（2003年調査～2013年調査）で、所得の分布がどのように推移してきたかを調べた。対象は2013年時点で妻が40～54歳の有配偶世帯であり、10ヵ年とも同一サンプル542世帯を使用している。

図表1-1は、高位の所得階層と低位の所得階層の所得比を表すP90/P10<sup>\*</sup>の値の推移を、夫および夫婦合算の年間給与所得（税込）について示したものである。2002年と2012年の値を比較すると、夫の所得では2.89（2002年）から3.59（2012年）へ、夫婦合算の所得では2.84から3.08となっている。いずれも近年ほど値が大きくなっており、高位の所得層と低位の所得層の差が広がっていることがわかる。また、10年を総じてみると、夫の所得の方が夫婦合算の所得よりも差の広がりが大きく、対象とした世代では、妻の所得が差の広がりを緩和させていることが示唆される。

図表 1-1 10年間の高位と低位の所得比（P90/P10）の推移



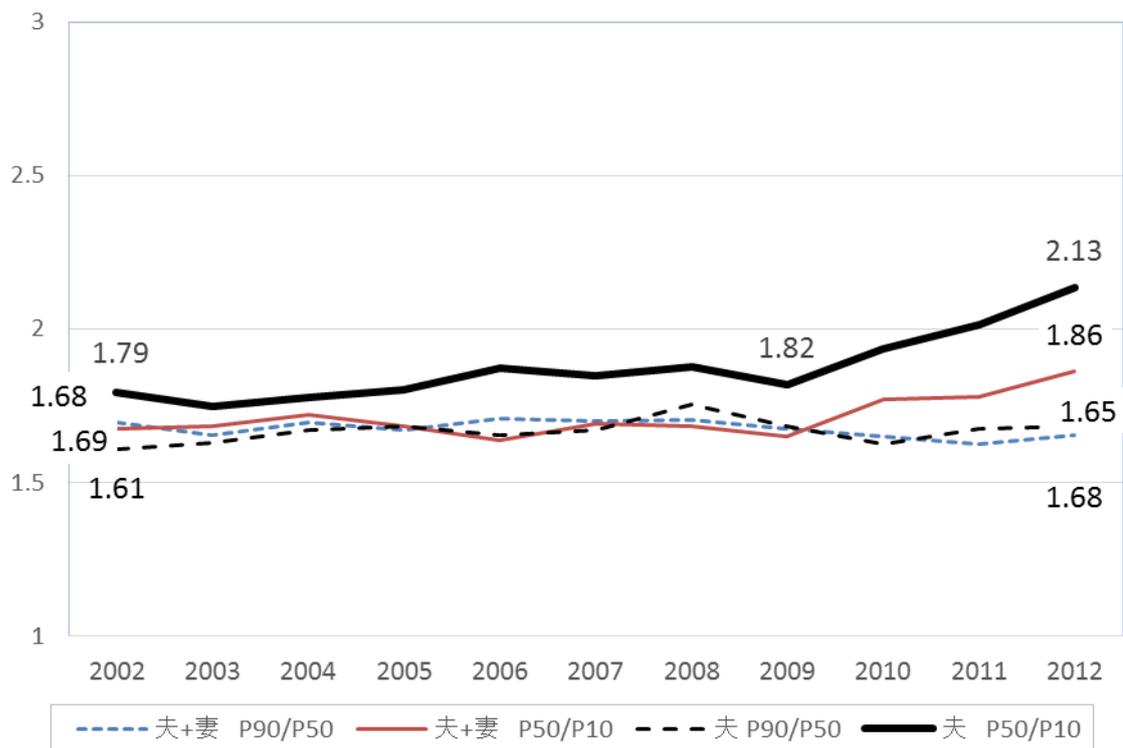
<sup>\*</sup> 対象世帯の所得を高低順に並べ100分割したとき、低い方からn番目の所得をPnと表記している。P10は低い方から10番目、P90は90番目の所得であり、P90/P10は、P90とP10の比率を算出したものである。

次に、所得分布の中心がどのように変化したかをみるため、高位の所得層（P90）と中位の所得層（P50）、および中位の所得層（P50）と低位の所得層（P10）の値の変化を、夫の所得、夫婦合算の所得のそれぞれについて比較した。

図表 1-2 を見ると、夫の所得の P50/P10 の値が他の指標の値に比して大きく、2002 年の 1.79 から 2012 年には 2.13 へと、この 10 年間で上昇基調にある。特に 2009 年から 2012 年にかけては、1.82 から 2.13 へと急激に大きくなっている。P90/P50 の値の動きと比較すると、両者の値が離れ、中位の所得層と低位の所得層の間の差が相対的に開いてきていることがうかがえる。これは、中・高位の所得層では所得の増加が、ペースが鈍化しつつも続いていることと、低位所得層の所得が低下基調にあることが重なった帰結である。

なお夫婦合算の所得については、大きな変化がない状態が続いていたが、2009 年以降、夫の所得の動きに呼応するように P50/P10 の値が上昇し始めている。

図表 1-2 10 年間の高位と中位（P90/P50）および中位と低位（P50/P10）の所得比の推移



※対象：542 世帯